

川崎病のサーベイランス

— 8年間の調査成績 —

屋代真弓、中村好一、藤田委由、柳川 洋

川崎富作*、大川澄男**

要約：厚生省川崎病研究班は1984年以来、全国149病院の協力を得て、川崎病の流行を迅速に把握する目的で、川崎病サーベイランスを実施し、1991年12月でまる8年が経過した。

今回は、最近の3年間に重点をしぼり、8年間の調査成績を報告する。1987年以来5年間、明確な流行はみられなかった。さらに全国疫学調査を実施していない1991年の川崎病全国患者発生数を推定した結果、年間5,000人以上の患者が発生していた。

見出し語：川崎病、サーベイランス、疫学

【目的】 川崎病の流行がおきたとき、医療機関および行政担当者ができるだけ早く流行を察知する必要があると考え、1984年1月より全国の主要施設の協力を得て、川崎病サーベイランス事業を実施し、1991年末で8年が経過した。

今回は、最近の3年間の成績を主に報告する。

【方法】 厚生省川崎病研究班が実施した第7回川崎病全国調査（1981.1～82.6の初診患者を対象）の際、患者報告数の多かった病院を府県ごとに選び、サーベイランス事業への協力を依頼した。その結果、全国149施設の参加をいただいたが、現在では担当医の異動等の事情により144施設より報告をいただいている。資料の

収集ははがきを用いて行ない、参加施設より毎月1回、上旬、中旬、下旬別、性別患者数を、翌月7日までに報告してもらい、25日までに集計して結果表を各施設および関係機関にフィードバックした。

【成績】 図1は1984～91年8年間の月別上中下旬別患者数を性別にみたものである。患者報告数は、男女とも同じ様な推移を示し、大部分の月で男が女の報告数を上回っていた。図2は、最近の3年間についてみたものである。1989年と1990年は特に目立った変化は見られないが、1991年の後半は男女とも減少傾向がみられる。特に最近6カ月間の女の報告数が著しく減

自治医科大学公衆衛生学教室 (Department of Public Health, Jichi Medical School)

* 川崎病研究情報センター (Kawasaki Disease Research Information Center)

** 日赤医療センター小児科 (Department of Pediatrics, Japan Red Cross Medical Center)

少しており、男女比は1.6とこれまでに比べ広がる傾向がみられる。図3は最近3年間についてサーベイランスで報告された患者数と全国調査で報告された患者数の推移をみたものである。サーベイランスで報告された患者数の推移は全国調査の推移とよく一致している。患者数はやや少なめであり、全国調査の患者数はその約3.4倍になる（以前は約3倍であった）。

図4は月別患者数を地方別にみたものである。地域により不規則な山がみられるが、明確な流行といえるようなものではなく、特に流行がなかった様子がはっきりうかがえる。

表1は、全国調査を実施していない1991年1年間の全国で発生した患者数の推定をしたものである。1989年、1990年両年の平均倍率の3.4と1991年のサーベイランスの患者報告数をかけあわせたもので求められる。その結果1991年の患者数は約5,100人と推定される。この数は過去2年間より少なめであるが、その原因としてはまず、患者数の減少が考えられるしかし、サーベイランス協力施設の一部に未回答があること、協力施設が減少したこと、第11回全国調査回収率が前回よりも高かったことも考慮しなければならない。

図1 8年間の上中下旬別・性別患者数

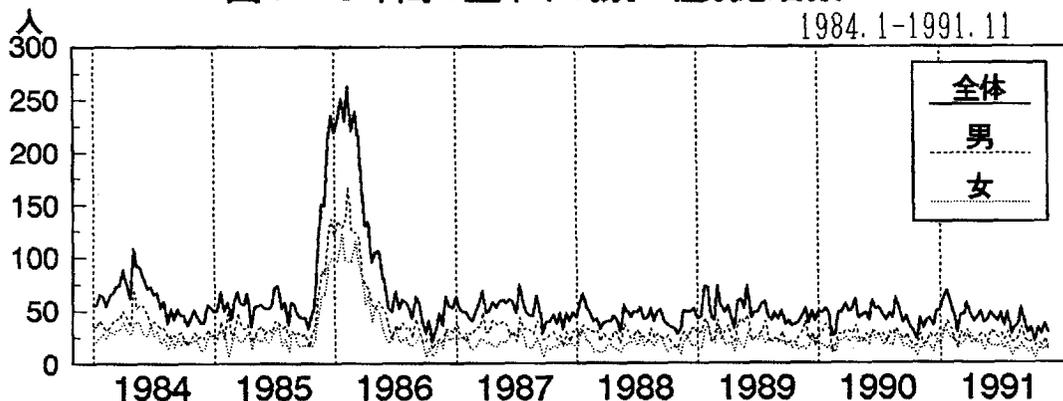


図2 3年間の上中下旬別・性別患者数

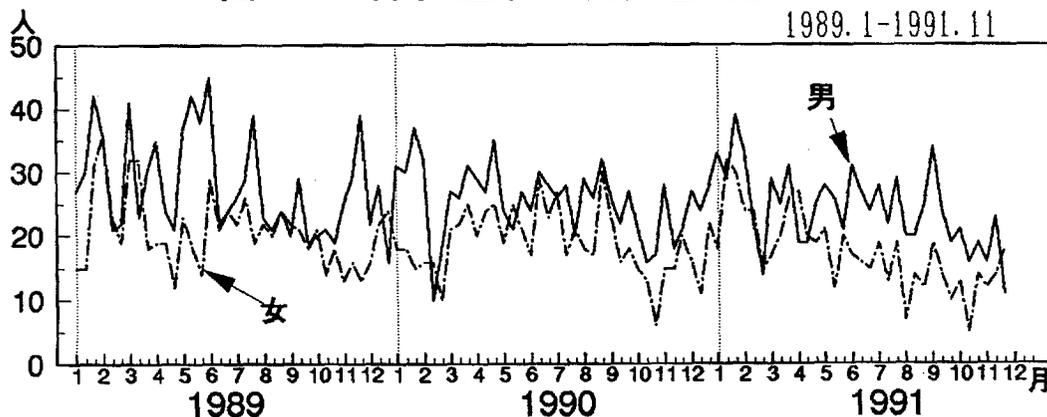


図3 月別患者報告数の推移

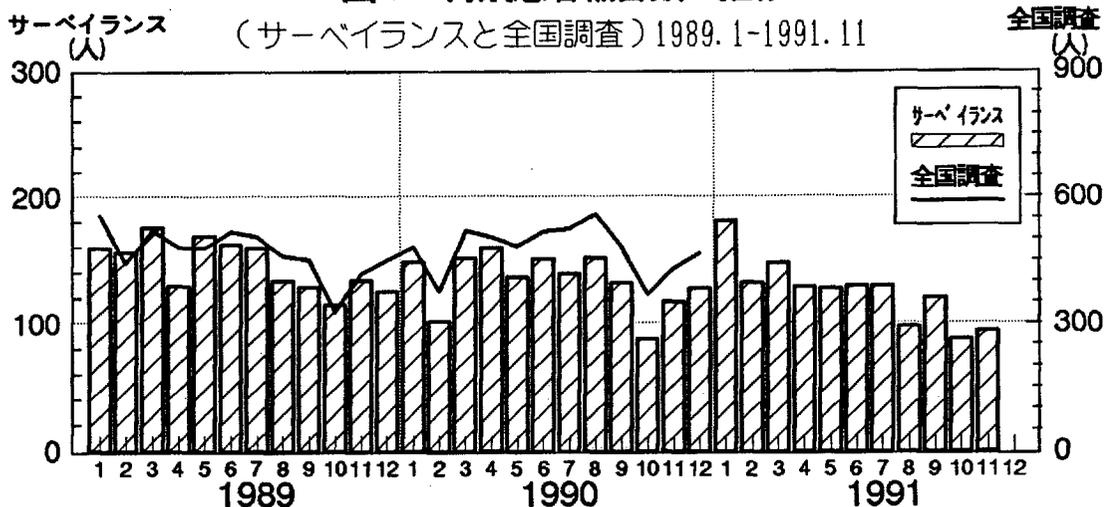


図4 月別・地方別患者数

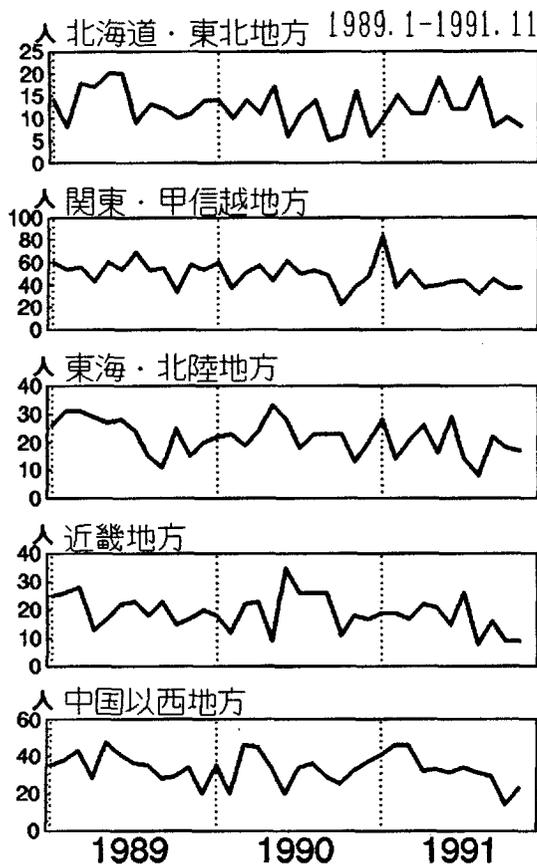


表1 1991年1年間の患者数推定

年次	サーベイランス	全国調査	倍率
1989	1,759	5,599	3.2
1990	1,607	5,698	3.5
1991	1月20日現在 1,499	約5,100	89, 90年の 平均 3.4

1991年の推定患者数

【考察とまとめ】 以上の結果をまとめると次のようになる。1987年以降5年間、地域により不規則な増減はみられたものの明確な流行といえるものではなく、全国的な流行はみられなかった。非流行期には明確な季節性もみられなかった。

1989年-1990年の全国調査の報告患者数はサーベイランス報告数の3.4倍であり、1991年1年間の全国推定患者数は約5,100人である。非流行期も年間約5,000人以上の患者が発生しており、新たな流行の発生を本事業により今後とも見守っていく必要がある。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：厚生省川崎病研究班は1984年以来、全国149病院の協力を得て、川崎病の流行を迅速に把握する目的で、川崎サーベイランス実施し、1991年12月でまる8年が経過した。今回は、最近の3年間に重点をしぼり、8年間の調査成績を報告する。1987年以来5年間、明確な流行はみられなかった。さらに全国疫学調革実施していない1991年の川崎病全国患者発生数を推定した結果、年間5,000人以上の患者が発生していた。